（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・ 教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 創価大学教職大学院
	事業名：ほしい学びを創る－八王子・多摩版探究型教員研修の構築
	研修等名：【NITS・創価大学教職大学院コラボ研修】 第 2 回「生成 AI を教育に活かす－学校現場は生成 AI とどう向き合い、どう活用するか－探究型教員研修の構築に向けて－」
	第１回 開催日時：令和６年 10 月 13 日（日）10 時～14 時 開催場所：創価大学（東京都八王子市丹木町 1-236　B103 教室） 参加人数（総数）と参加者の属性：40 名（教職員・管理職 20 名、教職大学院生 20 名） 第２回 開催日時：令和６年 12 月 16 日（水）16 時 30 分～18 時 30 分 開催場所：ハイブリッド　創価大学（東京都八王子市丹木町 1-236　B103 教室）ならびにオンライン 参加人数（総数）と参加者の属性：35 名（教職員・管理職 23 名、教職大学院生 12 名） 第３回 開催日時：①オンデマンド研修　　令和６年 12 月 20 日（金）～令和７年１月 26 日（土） ②オンラインセミナー　令和７年１月 26 日（日）13 時～15 時 開催場所：ハイブリット　創価大学（東京都八王子市丹木町 1-236　V404 教室）ならびにオンライン 参加人数（総数）と参加者の属性：38 名（管理職 15 名、教員 13 名、大学院生 10 名）

目的：
第 1 回：　NITS コラボ研修の趣旨ならびに探究型研修の目的や意義について理解を深め、学校現場での課題を改善、解決するための探究型の研修のあり方について、参加者間で深めることを目的とする。
第 2 回：教育現場が直面する生成 AI の普及に対して、それをどのように捉え、活用するかという課題について、探究型教員研修の構築の見地から理解を深めることを目的とする。
第３回：従来の悉皆研修や校内研修・研究等、教員の研修のあり方を見直し、教員一人ひとりが自己成長の目標を設定し、主体的に探究する研修のあり方について検討することを目的とする。

内容：※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。
第 1 回：玉川大学教職大学院教授　松本修先生教授より「教職大学院の展望と課題」のテーマのもと教員がどのようにそれぞれの資質・能力の向上を図っていくのかについて示唆を受けた。次に以下の 3 つの分科会に分かれワークショップを開催した。1)学校経営分科会　講師：八王子市立第十小学校　国冨尊校長　2)学級経営分科会　講師：あきる野市立東秋留小学校　古川恵美子主幹教諭、江戸川区立川西小学校　村上剛志主幹教諭　3)教科指導分科会　講師：東京学芸大学附属世田谷小学校　高橋達哉教諭

第 2 回：早稲田大学教職大学院田中博之教授より「生成 AI を教育に活かす―学校現場は生成 AI とどう向き合い、どう活用するか―探究型教員研修の構築に向けて」AI と研修のあり方に関して以下の内容について講話・話材提供をいただいた。１)基礎知識の習得 2)ガイドラインの理解３)実践的スキル習得４)継続的な学びと協働の場の整備５)倫理的活用と AI リテラシーの向上６)AI を活用した業務効率化その後、質疑応答と今後の研修のあり方を念頭にしたディスカッションを参加者間で行い理解を深めた。

第３回：「教員の研修観と研修企画を変える」ことをテーマとして予習研修として、受講者は、「教員研修の可能性を拓け、探求型教員研修を主体的にデザインしていく」（創価大学教職大学院教員作成）ビデオを視聴した。次にオンライン課題別分科会として 1）悉皆研修企画者（教育委員会職員や管理職等）分科会 2）学級経営力・教員指導力のアップデートを目指す教員等分科会に分かれ、参加教員一人ひとりが求めている「学び」について意見交流し、助言者の実践例を交えながら受講者が自ら探究する研修会のスタイルや運営について具体像を明らかにした。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。

第 1 回：松本修先生の講演では、教職大学院の歴史を通して、教員が教員をしていくなかでどのように組織として、個人として学んでいくかということについて大きな示唆を受けた。この講演を踏まえて、それぞれの教員が学び続ける姿を具体化すべく、3 分科会に分かれてワークショップが行われた。「学校経営」「学級経営」「教科指導」と参加した教員の求めるところに応じた領域で、それぞれの参加者の問いを生かしながらワークショップが進められ、第 2 回の研修会につながるものとなった。

第 2 回：参加者の発言ならびに振り返りから以下の気付きや学びが示唆された。1） 一度の研修だけで終わらせるのではなく、定期的な学び直しの場を設け、最新の知識や実践事例を共有できる仕組みを構築する必要がある。2） オンラインフォーラムや研究会の活用により、異なる学校や教育機関の教員同士が連携し、成功事例や課題を共有できる環境を整えることが求められる。3） 研修の効果を最大化するためには、研修後のフォローアップ体制も整えることが重要である。例えば、研修後に教員が実際に授業で AI を活用した事例を共有し合い、フィードバックを受ける機会を設けることで、学びの定着を促すことができる。継続的な学習サイクルを確立することで、持続可能な研修モデルを確立することができる。

第 3 回：実施後の foam による研修参加者の振り返りには、以下のようなことが記された。「研修に参加する側を中心にできていない現状や、渡辺先生が対談されていたところで、悉皆研修について納得感があった。どの地域でも苦戦していることが想像できた。動き出す契機になった」「研修観を変えるということに、いい意味でショックを受けた。個別最適で協働的は教員も同じというところことに強く賛同した。次年度は校内でもこのようなことを強く発信していく」「子どもたちの学びの形を変えていっているからこそ、自分たちも学びの主体者として意欲をもって研修に臨めるように、自由度のある校内研修の場の設定も行っていきたい」「教職大学院には、ぜひ教職大学院側として教員研修に関わりっぱなしにするのではなく、行政側に研修分析のフィードバックを行ってほしい。行政の意識を変え、探究型の研修会立案・運営・改善のスキルを習得する学びの機会を大切にしてほしい」。こうした記述から「教員の研修観と研修企画を変える」ことについての理解や機運が深まったことが示唆された。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今次採択された事業「ほしい学びを創る－八王子・多摩版探究型教員研修の構築」では、NITS からの提案（第一次）をもとに 3 回の研修を企図した。この事業は、NITS の提案を今後さらに具現化するためのスタートアップ的な位置づけであり、今後も継続して進める予定である。そのため、まずは八王子・多摩地域の教員が研修に関してどのような課題を感じ、どのように改善したいと考えているのかを、参加者間の対話を通じて共通理解を深めることに重点を置いた。すなわち、この事業そのものが「ほしい学び」として成り立つものでなければならないからである。参加者からの「上から下ろすばかりの改革ではなく、一度、下に降りて、一番苦労してきた人達の意見を吸い上げて、下から一緒に変わっていくような改革を仕掛けないと変わらないと思いました。」（第 3 回）という振り返りからは NITS における問題意識「学び手たる教職員を『主語』とした研修」に具体的に迫ることができたと考えられる。また、「学びの相似形」に関しては、参加者からの「小中連携会議などでテーマ設定が自己選択できるようにするなど、主体性を持って研修に取り組めるような仕組みづくりから始めていきたい」「学びの相似形は、今現在の教員が実感しなければならない課題であり、そこに形骸化した授業を打破することの重要な鍵があるのではないかと感じます」（第 3 回） 等の記述があり、参加者がその重要性を深く理解したことが示唆された。今後は「ほしい学びを創る」に即した教員研修の実践と検証を八王子市教育委員会とのネットワークを活かして実施し、八王子・多摩地域における「学びの相似形」の実体化を進めていく所存である。

アイディアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

「探究型」「学びの相似形」を意識した研修とすること。具体的には参加者の問題意識に沿うために「選択」を取り入れたり、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れるなどした。右の写真はワークショップの様子（第 1 回）